

茨城県図画工作・美術教育研究部研究調査委員会 授業実践報告書（令和元年 8月7日）

研究テーマ	「話す」・「聞く」・「話し合う」から創造する力を育む授業の工夫 —— 第4学年「絵の具でゆめもよう」の指導を通して ——
-------	---

東海村立中丸小学校 教諭

I 研究テーマについて

平成29年告示の小学校学習指導要領解説図画工作編は、教科の目標を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で示し、その一つ一つに「創造」を盛り込み、図画工作科の学習が造形的な創造活動を目指すものであることを示した。そして今後は、「造形的な見方・考え方を働きさせ、表現及び鑑賞に関する資質・能力を相互に関連させながら育成できるような内容への改善や充実」と、「生活を美しく豊かにする造形や美術の働きについての理解を深める学習の充実」の2点を具体的な方向性として挙げている。

授業における児童の創造活動は、材料や対象をじっくりと見たり、友達の表現に興味をもってまねをしたりというように、ごく自然に鑑賞と行き来しながら進められる。しかし、そうした形の鑑賞は、児童個人の興味に委ねられている。また、作品完成後の鑑賞では、友達の表現から学んだことや触発されて発見した新たな表現を試すような場はなかなか設定できない。鑑賞により、「面白そうだな」、「こうやればできるんだ」と気付いた児童が、実際にやってみたいと考えるのはごく自然な流れであるし、すぐにでもやってみたいという意欲の高まりは、創造する力を育てるチャンスでもある。創造力を育む鑑賞を授業の中に意図的に位置付けて、多くの児童に思考・判断する機会を確実にもたらせたい。また、図画工作科のもつ、生活を美しく豊かにする働きを実感できる学習活動を授業の中に取り入れて、豊かな生活を創造していくという態度も育てたい。

そのために、「話す」・「聞く」・「話し合う」といった言語活動をより多く取り入れた授業の工夫について考えていく。こうした、学び合う形での取り組みは、他教科においても大きな効果を上げている。集団の力により、一人一人が気付き、分かり、支え合えば、創造する力をより育めるものと考える。そのためには、1つの題材の中にどのように言語活動を取り込めばより効果的なのかを明らかにしたいと考え、このテーマを設定した。

II 研究の実際

1 題材名 絵の具でゆめもよう

2 題材の目標

- 模様づくりに興味をもって取り組もうとしている。 (造形への関心・意欲・態度)
- 模様づくりの材料や技法から試したいことを思い付いたり、できた模様から表したい絵を考えたりしている。 (発想や構想の能力)
- 自分のお気に入りの表現を生み出そうと、材料や用具の使い方を工夫している。(創造的な技能)
- 自分や友人の活動や作品から、よさや面白さなどを感じ取っている。 (鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 児童の実態

本学級の児童は、図画工作科への興味・関心が高く、授業を楽しみにしている児童が多い。アンケートからは、つくるだけでなく見ることにも楽しさを感じていることが分かる。すでに終えた題材である「まぼろしの花」(絵に表す) や「トロトロ、カチコチ・ワールド」(立体に表す) の鑑賞カードには、「どこが正面かを考えてつくることが大切」や「○○さんのように、たくさんの緑色を使ってみたい」といった記載があり、創造への意欲を感じた。

日頃から小グループでの学び合いに取り組んでおり、「話す」、「聞く」、「話し合う」素地は、ある程度できていると考える。

1 図画工作は好きですか	① はい 31名	② いいえ 0名	③ どちらとも言えない 1名
2 どのような活動が好きですか (複数回答)	① 工作に表す 29名	② 造形遊びをする 20名	
	③ 立体に表す 20名	④ 鑑賞する 20名	
	⑤ 絵に表す 19名		
3 授業の中で話し合うことは好きですか	① はい 29名	② いいえ 1名	③ どちらとも言えない 2名
4 話し合うことは学習に役立つと思いませんか	① はい 29名	② いいえ 0名	③ どちらとも言えない 3名
			(平成30年9月21日 32名調べ)

(2) 題材観

本題材は、多様な方法で模様をつくった紙をもとに、表したいことを絵に表すことをねらいとしている。模様づくりは、モダンテクニックを中心に身辺材を描画材のように使用したり型押しに使用したりと様々なアイデアで取り組める。模様のついた紙を使って最終的に表す絵も、様々な表しが考えられ、児童の発想場面が多い題材である。

(3) 指導観

学習活動の、「紙に模様をつける」、「紙で作品を作る」、「鑑賞会をして校舎内に展示する」のどの段階にも、よさや方法・表し方の工夫を感じ取る鑑賞活動を取り入れ、感じ取ったことを表現に役立てる授業が展開できるようにする。紙に模様をつける時は、作った模様をお互い自由に見たり教え合ったりできるような場を設定する。また、様々な色や大きさの紙を選んで模様を付けた紙は、ショップ形式で交流させ、模様の形や色から受けるイメージを言葉で伝え合うようにする。紙で作品を作り終えたら、小グループで作品について話し合い、友達の思いを聞いたり自分が感じ取ったりしたことを交流する。そして、題材の終末には自分たちの生活の場である校舎内にグループごとに作品を展示する。どの活動段階でも、作品と言語を通して鑑賞を確かなものにし、豊かな創造活動を引き出していくようにしたい。

4 題材の評価規準

造形への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
絵の具でいろいろ試し、表すことを楽しもうとしている。	いろいろな表し方ができる形や色、組み合わせや、できた紙などを使って表すことなどを考えている。	色を重ねたり、絵の具を混ぜたりするなど、いろいろ試しながら表し方を工夫したり、模様の紙の組み合わせ方を工夫したりしている。	自分や友達と工夫したところを見せ合ったり、展示したりしてよさや面白さを感じ取っている。

5 指導と評価の計画（7時間取り扱い）

次	時	主な学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
1	1 2 3	身近な材料や用具の使い方を工夫して、いろいろな方法で紙に模様をつける。	(閲) 集めた材料やいろいろな技法をもとにし、紙に模様をつけようとする。 【観察・作品】 (技) 自分の思いに合った表現を生み出そうと材料や用具の使い方を工夫している。 【観察・作品】 (鑑) 友達の活動から、面白さや工夫を感じ取っている。 【観察・ワークシート】
2	4 5	ペーパーショップで友達と紙を交換する。 模様をつけた紙で作品をつくる。	(鑑) 友達の紙からよさや美しさを感じ取っている。 【観察・ワークシート】 (發) 模様の形や色に着目して表したいことを考えている。 【観察・作品】 (技) 模様の形や色を生かし、使い方を工夫して表している。 【観察・作品】
3	6 7	自分や友人の作品について話し合い、校舎内に展示する。	(鑑) 自分や友達の作品についての話し合いから、よさや面白さを感じ取っている。 【観察・ワークシート】

6 指導の実際（3次の第6・7時）

(1) 目標

自分や友達の作品についての話し合いから、よさや面白さを感じ取っている。 (鑑賞の能力)

(2) 準備・資料

・児童の作品、マグネット、ホワイトボード、ワークシート、探検バック、美術館フロアの写真

(3) 展開

学習活動・及び内容	教師の働きかけ ④ 学び合い ⑤ 評価
<p>1 本時の学習課題1に取り組む。</p> <p>グループの友達と、作品について話そう！</p> <p>(1) 一人で見る。 - 近くで（部分） - 離れて（全体）</p> <p>(2) 作者である友達の話を聞く。 - 発想のきっかけ</p> <p>(3) もう一度見る。</p> <p>(4) 友達と話し合う。 - 形や色 - 技法の効果 - 作者の思い</p> <p>(5) グループ鑑賞を通して感じたこと・考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 個人の感性を大切にするために、「一人で見る→作者の思いを聞く→もう一度見る→話し合う」の流れで活動を進めることを確認する。 3, 4人という小グループでの鑑賞になると、作品を近くでしか見ない傾向にあるので、美術館の展示フロアの写真を見せて、中央にいすがある理由について考えさせ、作品の見方に気付かせる。 <p>④ 作者に問い合わせたり、一緒に見ている友達の考えを聞いて話し合ったりしながら、様々なよさや面白さに気付く。</p> <p>④ 自分や友達の作品について話し合い、よさや面白さを感じ取っている。 【鑑賞の能力】 (観察・ワークシート)</p>
<p>2 本時の学習課題2に取り組む。</p> <p>グループの友達といっしょに、作品を校舎の壁に飾ろう！</p> <p>(1) 飾れる場所を探す。 - 広さ - 周りの様子</p> <p>(2) 作品を飾る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品にはペーパーショップで集めた模様と作者がつくった模様が使われていてこと、学習課題1で聞いた作者の思いについて触れ、大切に扱おうという気持ちを引き出す。 作品を展示する際、作品の横のラインは、展示スペースの横のラインや床に対し平行にすることを押さえる。 すぐに展示の仕方を決定せず、仮止めで見え方を確認するよう助言する。
<p>3 校舎内に展示された作品を、全員で見る。</p> <p>(1) 展示の仕方のよさについて話し合う。</p> <p>(2) 作品の展示や全員での鑑賞を通して感じたこと・考えたことをワークシートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「一人で見る→展示したグループの話を聞く→もう一度見る→友達と話し合う」の流れで鑑賞することを伝える。 表現のよさだけでなく、友達のよさや相互に学び合うよさにも気付けるように、何人かの児童に発表させる。
4 本時のまとめをする。	

7 成果と課題

- 第1次の紙に模様をつける活動では、ミラクルスペースと名付けた作品の乾燥台に児童が集まり、多くの児童が友達の面白い試みを参考にしたり直接やり方を尋ねて試したりすることができた。自然発生的に生まれた児童間の交流により、新しい表現や技術をクラス全体に広げることができた。
- 次の題材「コロコロガーレ」の制作後、「友達に自分のアイデアを盗まれた」という訴えがあった。友達の作品を鑑賞して面白いと感じた表現をそのまま自分の作品に用いてしまうことと、そこから自分のアイデアを生み出したりアイデアを進化させたりすることは違うということにも気付かせていく必要がある。違うことのよさを実感したり、自分の表現に自信をもつたりできるような授業を工夫したい。
- 第2次のペーパーショップを開いて気に入った模様の紙を集め活動では、買う側が売り手（作り手）の児童の表現を認める言葉をかけていた。また、売り手は、模様のよさのPRから「〇〇みたいでしょ」といった、発想が苦手な児童の助けになるような言葉をかける様子も見られた。作品作りでは、友達のつくった模様も使えるために、技能面で課題がある児童も造形への意欲を高め、より豊かに発想することができた。

- ・ 第3次の作品展示については、児童間で学び合う姿が顕著だった。児童の、「誰の作品にも目が行くように展示したい」という発言を誰もが意識して活動することができた。グループの多くが、形（作品の並べ方）や色の効果を考えて並べることができた。こうした活動は一つの表現であり、作品とも考えられる。「学校の雰囲気が変わったよね」という児童の言葉に、生活を美しく豊かにする働きを実感できる学習活動の大切さを感じた。自分たちの生活環境に働きかけるこのような鑑賞活動は、豊かな生活を創造していく上でとても大切である。どのような題材にどのように位置付けるかやその方法について今後も研究を進めたい。

※ 参考資料
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図画工作編